

TAC 中小企業診断士講座 緊急特別セミナー**「平成 28 年度第 1 次試験合格発表を受けて」
～TAC が考える平成 29 年度対策とは～**

2016 年 9 月 7 日 (水) 19 時～ TAC 渋谷校

～セミナーの内容～

1. 平成 28 年度第 1 次試験 合格発表内容
2. 平成 28 年度第 1 次試験 特徴と傾向 (全体・科目別)
3. TAC が考える平成 29 年度第 1 次試験対策
4. 個別相談

1. 平成 28 年度第 1 次試験 合格発表内容

	受験者数	合格者数	合格率
H28	13,605 人	2,404 人	(※) 17.7%
H27	13,186 人	3,426 人	26.0%
比較	419 人	▲1,022 人	▲8.3%

(※) 得点調整後の合格率

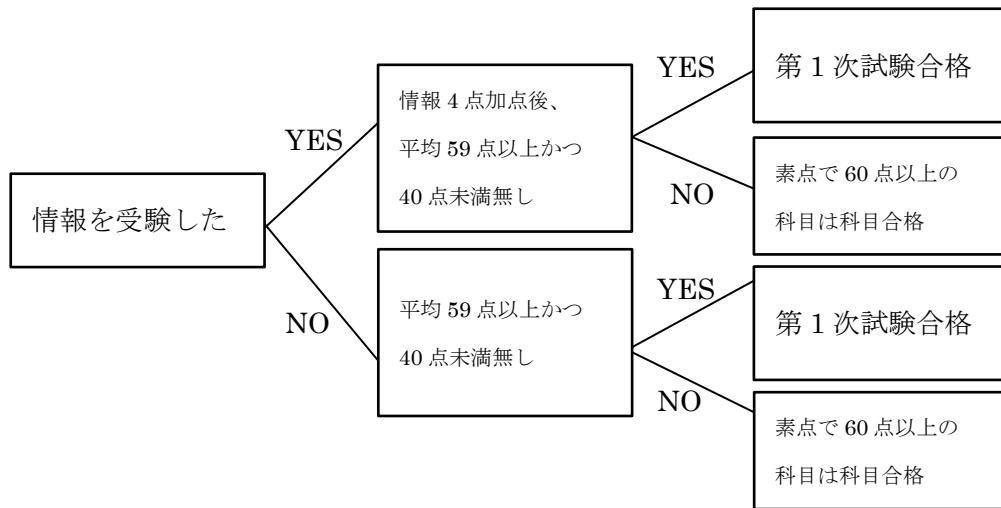
(科目合格率)

	経済	財務	経営	運営	法務	情報	中小
H28	29.6%	21.6%	29.6%	11.8%	6.3%	(※) 8.5%	12.5%
H27	15.5%	36.9%	16.7%	20.5%	11.4%	6.4%	12.2%
比較	14.1%	▲15.3%	12.9%	▲8.7%	▲5.1%	2.1%	0.3%

(※) 得点調整後の科目合格率

<備考> 合格基準の弾力化

- ・ 合格基準「総点数の 59%以上 であって、かつ、1 科目でも満点の 40%未満がないこと」
 - ・ 経営情報システム 「一律 4 点加点」
- 注) 科目合格基準 60 点は弾力化無し
- 素点 60 点 (情報は 56 点) で科目合格 (素点で 59 点は科目不合格)

【第 1 次試験及び科目合格の合格判定】**【MEMO】**

2. 平成 28 年度第 1 次試験 特徴と傾向（全体・科目別）

＜全体＞

- TAC データリサーチ平均点推移

H24	H25	H26	H27	H28
59.1	58.1	58.6	59.2	56.2 (弾力化調整前)

- 現行試験制度（7 科目、科目合格制）になった平成 18 年度以降、最低点

- 難易度が高かった原因

- ① 出題範囲の拡大化…頻出領域以外からの出題数の増加
 - ② 安易に正解を選択できる問題の減少…実践的・実務的知識を問う問題の増加

＜難易度が高かった科目＞

- 難易度が高かった原因

- ① 情報：從來の頻出論点で実務的・詳細な理解を問う出題（直接的な出題の減少）
 - 同一問題で複数の論点を問う選択肢の構成
 - 実践的知識を問う問題の増加
 - IT 各分野での詳細、比較的新しい知識を問う出題
 - ② 法務：頻出領域における深い知識を問う出題の増加
 - 出題数減少による出題領域の偏り
 - ③ 運営：専門的、実践的な領域・用語の出題数の増加、処理問題の多さ

<経営情報システム>

① 従来の頻出論点で実務的・詳細な理解を問う出題

ハードウェア（5大装置）

- 平成 28 年度・第 1 問（正答率：B）：PC の構成の実際が問われている。

各種業務処理を行ううえでパーソナルコンピュータ（PC）の重要度が増す中、業務内容に適した機器構成を検討することは重要である。これに関する記述として最も適切なものはどれか。

- ア HDD とは異なり SSD は、OS のインストールができないため起動ドライブとしては使えない。
- イ PC にグラフィックボードを付ける場合、IDE インタフェースに装着する。
- ウ PC には、処理速度を向上させるために、メモリモジュールを複数枚組み合わせて利用できるものがある。
- エ マザーボード上の CPU ソケットの形状は標準化されているので、処理速度の速いどのような CPU への交換も可能である。

- 平成 24 年度・第 2 問（正答率：A）：用語の定義が問われている。

近年、多様なコンピュータが登場しつつあるが、その基本的動作原理は同じである。それを把握しておくことで、新たな技術の理解も早くできる。下記は、コンピュータの構成要素とそれらによってコンピュータの基本機能が実現される過程を記述した文章である。

以下の文中の空欄 A～D に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを下記の解答群から選べ。

- データおよび処理命令が主記憶装置に記憶されている。
- A の指示で、主記憶装置に記憶されたデータおよび処理命令は、□ B に転送される。
- B では、処理命令に従ってデータを処理し、□ A の指示でその演算結果を転送させて □ C に記憶させる。
- C に記憶された演算結果は、□ A の指示で □ D に転送されて出力される。

ハードウェア・記憶装置および記憶管理

- 平成 28 年度・第 3 問（正答率：C）：詳細な理解が問われている。

業務等に利用する各種のアプリケーションプログラムの実行が円滑に行われるよう、コンピュータには様々な仕組みが組み込まれている。しかし、コンピュータの種類によってそれらの仕組みの装備状況が異なり、機能にも能力差があるので仕組みの内容を理解することも必要である。

コンピュータの仕組みに関する以下の①～④の記述と、その名称の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

- ① 主記憶装置の記憶領域において、実行中のプログラムが使用しなくなった領域のうち断片化したものを整理し、連続して利用可能な記憶領域を確保すること。
- ② コンピュータが仮想記憶の仕組みを備えている場合、主記憶装置と補助記憶装置の間でデータの入れ替えを行うこと。
- ③ 演算装置の処理能力に比べて大幅に処理が遅い装置に対するデータの入出力処理において、データを一時的に補助記憶装置等に保存して処理することで、コンピュータの処理効率を向上させること。
- ④ 半導体の記憶装置を実装したハードディスクで、使用頻度が高いデータを半導体記憶装置に記憶させ、低速の磁気ディスクからの読み出し回数を減少させて処理の高速化を図ること。

- 平成 23 年度・第 2 問（正答率：A）：直接的に用語の定義が問われている。

業務に使用しているパーソナルコンピュータ（PC）の応答速度が遅くなってきた。その際の状況と対策を記述した次の文中の空欄 A～D に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

業務に使用している PC には仮想記憶を利用するオペレーティングシステム（OS）がインストールされている。最近、PC を使用した作業中に **A** にアクセスしている頻度が高くなり、速度低下は仮想記憶に関連する部分で発生していることが疑われた。そこで、**B** の利用状況を調査したところ **C** が頻繁に発生していることが判明した。そこで、**D** 、改善を図った。

② 同一問題で複数の論点を問う選択肢の構成

- 平成 28 年度・第 10 問（正答率：E）

コンピュータやスマートフォン、あるいは通信機能を備えた周辺機器を LAN 環境で利用するために、それらの機器にマシン名やアドレスを割り振るなどの管理が必要である。アドレスには MAC アドレスや IP アドレスがあるが、後者は従来の IPv4 に加え、より広いアドレス空間を持つ IPv6 も利用されている。

このアドレス管理に関する記述として最も適切なものはどれか。

ア IPv4 の IP アドレスは 32 ビットからなり、前半のネットワーク部と後半のホスト部から構成される。CIDR 表記では、例えば、211.11.0.1/16 のように、/以下にネットワーク部のビット数を記す。

イ IPv6 では IP アドレスは 128 ビットからなり、IPv4 との互換性を保つために、先頭から 1～80 ビットはゼロ、81～96 ビットは 1 とし、残りの 32 ビットに IPv4 のアドレスを入れる IPv4 互換アドレスという方法を採用している。

ウ IPv6 では IP アドレスは 128 ビットからなり、プレフィックスとインターフェース ID により構成される。インターフェース ID が IPv4 のネットワーク部に該当する。

エ MAC アドレスは 64 ビットからなり、先頭の 24 ビットが製品固有の番号、残りの 40 ビットに製造メーカ番号が割り当てられ製造メーカから出荷される。

ネットワークに関する論点の出題であるが、「アドレス」について複数の論点、MAC アドレス、IP アドレス(IPv4、IPv6)について選択肢が出題されており、一つの論点の正誤判断による消去法などの解法が有効とならない(出題複数の論点について、詳細な理解が問われている)

③ 実践的知識を問う問題の増加

- 平成 28 年度・第 5 問（正答率：C）

商品売上高を示したデータが下記のように、表計算ソフトウェアのシート中の A～C 列に入力されている。

D 列に示したような、売上高が多い順の順位を求めたい。同じ値が複数ある場合は同じ順位を与え、次の大きさの値には重複した分を飛ばした順位を与える。

このために、条件に一致した値の個数を数えるのに COUNTIF 文を利用して順位を求める式を考え、その式を D2 のセルに入力する。D2 の式を下の行に複写して、D 列のような順位を求めたい。

COUNTIF 文を用いた D2 のセルに入る式として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。ただし、COUNTIF 文、& の使用方法は以下のとおりである。

- COUNTIF（対象範囲、条件式）：対象範囲のうち、条件式に記述した内容を満たすセルの個数を返す関数
- &：文字列の連結

行\列	A	B	C	D
1	商品コード	商品名	売上高	順位
2	C001	バナナ	500	1
3	C005	イチゴ	250	5
4	C004	リンゴ	500	1
5	C002	ミカン	210	6
6	C003	メロン	440	3
7	C006	スイカ	440	3

実務での表計算ソフトウェアの実践が無い場合には、問われている内容の計算方法が判断できない（計算式自体の知識と、その具体的な利用方法と与えられたデータへの応用が問われている）。

④ IT 各分野での詳細、比較的新しい知識を問う出題

- 平成 28 年度・第 2 問（正答率：E）

最近では液晶パネルが様々な種類のコンピュータ用ディスプレイやスマートフォン等に使用されている。液晶パネルには動作原理が異なる数種類の製品があり、その選択に当たっては、業務における利用目的に合った画面の表示能力や描画速度を有しているか等に注意を払わなければならない。特に商品の写真や動画を扱う場合などは、正確な色を再現することができる特性を備えた製品を選択する必要がある。

液晶パネルに関する以下の文章の空欄 A～D に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

液晶パネルでは、電荷を与えて液晶の並びを変化させることで光の **A** を変えているので、正面以外の角度からパネルを見ると正しい色や輝度が表現できず画面が見にくいが、この特性を改良した製品も販売されている。

液晶パネルの中で、**B** 方式のパネルは、比較的応答速度が速く、光漏れが少ないので黒がはっきりと表現できるが、正面以外の角度からは見にくい。一方、**C** 方式のパネルは正面以外の角度からの見え方が比較的良好で色の再現性は良いが、光漏れの発生度合いが大きくコントラスト比を高くしにくく、応答速度の高速化も難しい。

液晶ディスプレイは色強度、コントラストなどが調整できるようになっているが、商品の写真や動画などの色を正確に表現するためには、**D** を考慮した調整が可能なカラーマネジメント機能を備えたものを使用する必要がある。

ハードウェア・出力装置の論点で、液晶ディスプレイ・パネルの詳細な知識を問われている。

⑤ 平成 28 年度の出題元情報の分析

IT 各分野での比較的新しい知識は問われているが、必ずしも最新の IT 技術の動向では無く、公表され既に活用や対策が普及している内容について問われている。

★ 平成 28 年度出題での例

- ・ 第 9 問 (正答率 : D)

データベース技術に関する出題ではあるが、ビッグデータについては既に活用段階に入っており、関連する技術などに目を向ける必要がある。

参考 : 「くらしと経済の基盤としての IT を考える研究会」報告書

(2012 年 3 月公開)(IPA・独立行政法人 情報処理推進機構)

2. ビッグデータを支える技術と課題

<http://www.ipa.go.jp/about/research/2011bigdata/index.html>

- ・ 第 20 問 (正答率 : D)

セキュリティ技術に関する出題ではあるが、攻撃方法は多様化しており近年で増えている攻撃方法やリスクについては目を向ける必要がある。

参考 : IPA テクニカルウォッチ

(IPA・独立行政法人 情報処理推進機構)

知らぬ間にプライバシー情報の非公開設定を公開設定に
変更されてしまうなどの「クリックジャッキング」に関するレポート
(2013 年 3 月公開)

<http://www.ipa.go.jp/security/technicalwatch/index.html>

⑥ TACデータリサーチによる分析

得点層別（「60点以上」および「60点未満」）の正答率・ランクおよび正答率の差異

問題	60点以上		60点未満		正答率の差異
	正答率	ランク	正答率	ランク	
第1問	93%	A	78%	B	14%
第2問	39%	D	17%	E	21%
第3問	65%	B	41%	C	24%
第4問	98%	A	89%	A	9%
第5問	84%	A	41%	C	43%
第6問	95%	A	77%	B	18%
第7問	78%	B	46%	C	32%
第8問	91%	A	71%	B	19%
第9問	53%	C	20%	E	33%
第10問	40%	C	11%	E	29%
第11問	93%	A	69%	B	24%
第12問	98%	A	89%	A	10%
第13問	66%	B	44%	C	22%
第14問	38%	D	32%	D	6%
第15問	57%	C	32%	D	25%
第16問	24%	D	10%	E	15%
第17問	75%	B	50%	C	25%
第18問	50%	C	24%	D	26%
第19問	71%	B	48%	C	23%
第20問	69%	B	36%	D	33%
第21問	47%	C	19%	E	28%
第22問	96%	A	79%	B	17%
第23問	30%	D	8%	E	22%
第24問	36%	D	20%	E	16%
第25問	33%	D	18%	E	15%

※ 四捨五入の関係で、「60点以上の正答率」－「60点未満の正答率」と「正答率の差異」は必ずしも一致しない。なお、差異が20%以上（1ランクに相当）ある問題に網掛けを付している。

＜経営法務＞

- ① 頻出論点の問い合わせ方が複雑である（覚えた知識をそのまま問うわけではない）。

役員（監査役、会計参与）の任期

- ・ 平成 28 年度・第 1 問（正答率：B、不適切の b を含むアとウの合計選択率 29%）
年数でなく現任、新任の差異として問われている。

b 定款で定めれば、増員として選任された監査役の任期を、他の現任監査役の任期の満了する時までとすることができる。

（参考）

- ・ 平成 23 年度・第 18 問（設問 1）（正答率：B、ウが不適切）
直接年数が問われている。

ウ 会計参与の任期は、監査役と同様であり、原則として選任後 4 年以内に終了する事業年度の定時株主総会の終結の時までである。

新設分割の内容

- 平成 28 年度・第 3 問（設問 1）（正答率：C）

会社分割の定義（権利義務の全部または一部を分割）が会話形式で問われている。

甲 氏：「(略)、新設分割で α 事業をいったん切り出して子会社 Z 社を設立し、弊社が Y 社から Z 社の全株式を現金で買い取るスキームを考えています。(略)」

あなた：「(A)。(略)」

ア α 事業に関する債務は、Z 社が承継する債務から除外することはできないので、α 事業に関する簿外債務がないかどうかの調査が重要になります。

(参考)

- 平成 26 年度・第 18 問（正答率：B）

会社分割（吸收分割）の債務移転が問われている。

イ 会社分割では適法に債権者保護手続を経ることで対象事業の債務を移転させることができるが、事業譲渡では個々の債権者から同意を得ずして債務を移転させることができる。

- 平成 25 年度・第 1 問（正答率：C）

吸收分割や事業譲渡のメリットが問われている。

b 財務諸表に計上されていない偶発債務を切り離すことができるメリットがあります

- 平成 24 年度・第 4 問（正答率：B）

新設分割で可能なスキームが問われている。

C 部門をそのまま切り出して、直接 1 つの独立した会社とした後に、その株式を譲り受け、A 社と同様に、X 社の 100 パーセント子会社とすることとしたい。

意匠の定義

・ 平成 26 年度・第 18 問（正答率：B）

意匠登録の可否が問われている。

イ X 氏：弊社のアイスクリームのヒット商品「診断くん」のデザインを一新しました。ぜひとも意匠登録をして模倣品対策をしたいのですが、意匠登録は可能でしょうか。
あなた：はい、意匠登録は可能です。アイスクリームは、時間の経過によりその形態が変化してしまいます。しかし取引時には固定した形態を有しているので、意匠登録の対象となることはあります。

<知識対応>

意匠登録されるには、I.意匠であるか（意匠の定義を満たすか）、II.登録されるか（登録要件を満たすか）の2段階をクリアしないといけない。

I 意匠の定義：

- 1) 物品性 2) 形態性 3) 視覚性・美感性

II 登録要件：

- 1) 工業上の利用可能性 2) 新規性 3) 創作性 4) 先願 5) 不登録事由非該当

→「対象となることはある」とは、IはOK、IIが通ればよい、ということを指す。

<問題対応>

「対象となることがある」が×であれば、「対象となることはない」となる。

ここまで言い切る自信がなければ、○としておくことが“問題対応力”である。

（参考）同問題、他の選択肢の文末

- ア 意匠登録を受けられる場合はありません。
ウ 意匠登録の対象となることはありません。
エ 意匠権によってのみ保護されます。

（参考）平成 28 年度・第 11 問（正答率：D、不正競争防止法、各選択肢文末のみ）

- ア 周知表示混同惹起行為となることはない。
イ 著名表示冒用行為となる。
ウ Eによる丙の使用を差し止めることができない。
エ 周知表示混同惹起行為となることがある。（適切：正解）

(参考) 平成 28 年度・第 17 問 (正答率 : E、共有についての横断的な問題。)

ウ 共有不動産の共有者の 1 人の持分を競売により取得した買受人は、他の共有者との間で協議が調わなければ、その共有不動産全部について単独で所有権を取得することができる。(協議が調わなくとも取得できる場合があるので不適切)

難しい内容ではあるが、例外がないということに自信がない限り○にはできない表現。

(不正解ウの選択率 : 6 8 %)

② 専門的、実践的領域の出題数が増加している

英文問題

平成 28 年度・第 15 問 (正答率 (設問 1 : D、設問 2 : C))

あなた：「(略) 国際的な租税回避策に利用される “ (B) ” について (略)。」
(設問 1)

会話の中の空欄 A には、特定の所得の支払者がその所得（源泉所得）を支払う際に支払金額から所得税額を差し引いて徴収し、その徴収額を国に納付するという税制上の仕組みを意味する英単語の動詞が入る。空欄 A に入る語句として、最も適切なものはどれか。

ア impose イ pay ウ provide エ withhold

(設問 2)

会話の中の空欄 B に入る語句として、最も不適切なものはどれか。

ア tax haven イ tax heaven ウ tax inversion エ tax shelter

(参考) 直近 5 年間の英文問題

	H24	H25	H26	H27	H28
マーク数	1	2	3	2	2
合計得点	4 点	7 点	14 点	8 点	10 点

③ TACデータリサーチによる分析

得点層別（「60点以上」および「60点未満」）の正答率・ランクおよび正答率の差異

問 題	60 点以上		60 点未満		正答率の 差異	
	正答率	ランク	正答率	ランク		
第1問	82%	A	60%	B	21%	
第2問	78%	B	55%	C	23%	
第3問	(設問1)	77%	B	50%	C	27%
	(設問2)	73%	B	53%	C	20%
第4問	41%	C	21%	D	19%	
第5問	61%	B	42%	C	19%	
第6問	84%	A	61%	B	23%	
第7問	51%	C	35%	D	16%	
第8問	61%	B	36%	D	25%	
第9問	46%	C	23%	D	23%	
第10問	85%	A	63%	B	22%	
第11問	48%	C	30%	D	18%	
第12問	97%	A	81%	A	17%	
第13問	60%	B	40%	C	20%	
第14問	52%	C	25%	D	27%	
第15問	(設問1)	56%	C	32%	D	24%
	(設問2)	60%	B	38%	D	22%
第16問	94%	A	86%	A	8%	
第17問	30%	D	15%	E	15%	
第18問	53%	C	32%	D	21%	

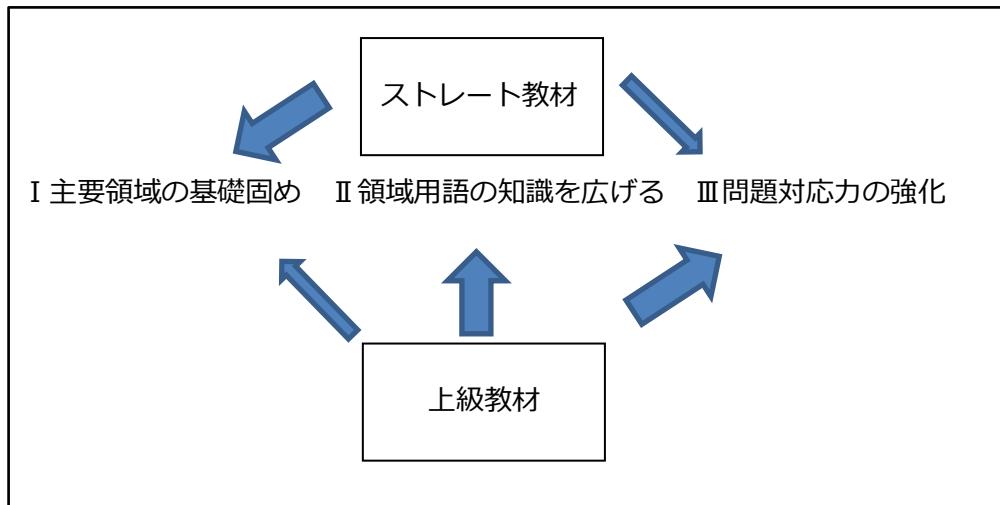
※ 四捨五入の関係で、「60点以上の正答率」－「60点未満の正答率」と「正答率の差異」は必ずしも一致しない。なお、差異が20%以上（1ランクに相当）ある問題に網掛けを付しているので、まずはこの問題の振り返りを優先してほしい。

3. TAC が考える平成 29 年度第 1 次試験対策

① 教材の位置づけ

<全体>

I 主要領域の基礎固め II 領域用語の知識を広げる III 問題対応力の強化



<科目>

	ストレート教材	上級教材
情報	基本 + 近年出題領域の拡充	テキスト構成変更。領域、出題の拡充。
法務	基本（一部改定）	領域の見直し、拡充。問題対応力強化。

※詳細は別紙「1次上級講義概要書」を参照して下さい

(参考)

2017年目標 講義・教材方針

■ 基本講義

ITに関する基礎的な知識の習得 + 近年出題の内容

- 基本テキスト : 構成の大幅な変更なし
- 講義内容 : 構成の大幅な変更なし
- 答練・模試 : 近年出題の内容、基本テキスト未掲載の選択肢を含む問題を出題

■ 上級講義

基礎的な知識は習得済みとし、近年出題の内容を学習

- 上級テキスト : 構成を変更
- 講義内容 : 構成を変更した内容についての解説実施
- 答練・模試 : (基本講義と同様)

- 近年出題の内容の取得候補
情報処理技術者試験、IPAサイトなど

IT各分野で比較的最新の内容を盛り込む

2017年目標 上級講義テキスト構成案

上級講義については講義編成を変更する。

システム開発および利用の流れの理解と、近年出題論点の学習が目的。

2017年目標

- 第1回
 - 過去問分析
 - コンピュータの構成
(ハード、ソフト、DB、PG言語)
- 第2回
 - システムの構成
(ネットワーク、システム構成)
- 第3回
 - システムの開発
(ソフトウェア開発)
 - システムの利用
(経営情報管理)
- 第4回
 - システムの運用
(セキュリティ)
 - 統計

2016年目標

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 第1回 <ul style="list-style-type: none"> • 過去問分析 • ハードウェア • ソフトウェア | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2回 <ul style="list-style-type: none"> • DB • ネットワーク • インターネット |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 第3回 <ul style="list-style-type: none"> • セキュリティ • システム構成技術 • プログラム言語 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第4回 <ul style="list-style-type: none"> • ソフトウェア開発 • 経営情報管理 • (補足)ガイド・法律・統計 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ その他 <ul style="list-style-type: none"> • 各章末に用語集 | |

② 1・2次上級本科生のカリキュラム概要

<1次>

上級講義（10～2、3月）→上級答練（3～4月）→完成答練×2（5～6月）

→公開模試（6末）→最終講義（7月）

科目別上級講義回数

経営	財務	運営	経済	情報	法務	中小
4	5	4	5	4	4	3

答練の種類、回数、内容（養成答練は自宅学習）

答練	回数	内容
上級答練	各1回	上級講義の確認テスト
完成答練	各2回	完成度合を試すテスト
公開模試	各1回	本試験を模すテスト

<2次>

講義（12～3月）→養成演習（4月）→チェック模試（5月）→（1次試験）→直前演習（8～9月）

講義、演習	回数	内容
TACメソッド解説講義	2回	TACメソッド（2次の解法）を知る講義
2次対策講義	10回（事例IV×4回、事例I～III各2回）	各事例の特徴を知り、対策を学ぶ講義
2次養成演習	各事例1回	講義内容を確認しつつ、実践練習するテスト
2次チェック模試	1回	学習内容を試すテスト
2次直前演習	4事例×各3回	2次試験の仕上げテスト
2次公開模試	1回	本試験を模すテスト

以上